

観光の視点で見た都市間比較と観光振興策に関する研究 ～福岡市と大阪市を対象として～

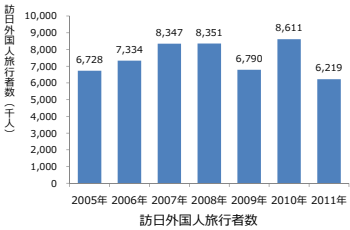
福岡大学 辰巳 浩，堤 香代子，樋口 裕章

研究の背景と目的

福岡市は長い歴史の中で培われた独自の個性と魅力を持つ九州最大の都市である。空港や駅からのアクセスも良く九州の玄関口として発展してきた。アジアの玄関口として、中国や韓国などアジアから毎年多くの訪日観光客が福岡市を訪れている。しかし、尖閣諸島の領土問題など日中関係の悪化により、観光客も減少傾向にあるが、福岡市は中国人観光客のために中国語の券売機を設置するなど、誘致策も積極的に推進している。外国人観光客が増加し観光することは、福岡市にとって重要である。

我が国においては小泉純一郎氏が首相就任以降、観光産業に力を入れ始めており、2006年12月に「観光立国推進基本法」が成立し、2007年6月の「観光立国推進基本計画」の閣議決定等、「観光立国実現」が今後の日本経済発展の課題となっている。2010年12月に福岡市長に高島市長が就任以降、福岡市は観光ビジネスに力を入れ始めた。福岡市は市内の観光施設や観光資源の整備を行うことで、多くの観光客が福岡市に足を運び、福岡市はさらに発展していくと考えられる。

本研究は、福岡市の現状を把握し、問題点・改善点を抽出することが重要であり、福岡市と他の都市を観光の視点で比較することで現状を把握し、今後の課題を見つけることを目的とする。



福岡市・大阪市の概要



福岡市天神の風景（出典：福岡市）

福岡市は福岡県の県庁所在地であり、政令指定都市に指定されている。九州地方において最大の人口規模を有する都市である。黒田藩の城下町として古くからアジアの貿易の拠点として栄えてきた商人の町・博多からなり、現在も多くの商業施設が存在している。キャナルシティ博多やホークスタウン、マリナシティ福岡など施設が豊富に揃っている。

福岡空港や特定重要港湾に指定されている博多港をはじめとして、天神や博多駅を中心に県外の各地と結びついており、アクセスが非常に良いため、多くの人が訪れる。歴史、祭り、グルメ等の観光資源を楽しむことができる。



大阪市道頓堀の風景（出典：wikipedia）

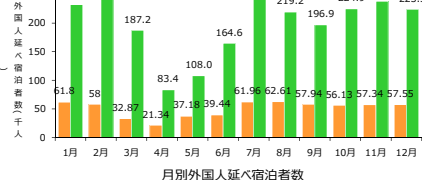
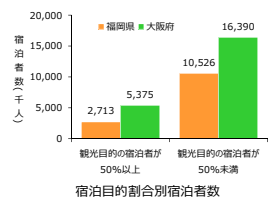
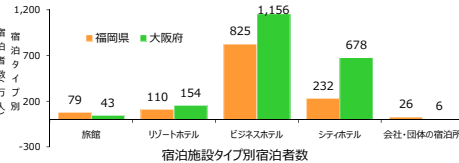
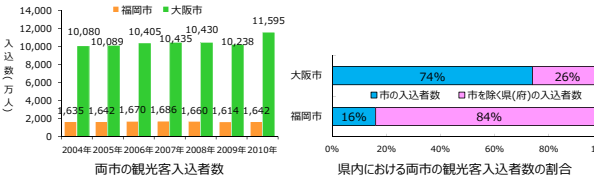
大阪府は日本の近畿地方の都市で、大阪府の中央に位置している。大阪府の県庁所在地で政令指定都市である。

古代より瀬戸内海、大阪湾に面した当時の国際的な港である住吉津や難波津などのある外交に関連する湾岸都市として栄え、江戸時代には江戸を凌ぐ経済・交通・記入・商業の中心地として発展し「天下の台所」と称されていた。

現在でも、大阪府は近畿地方の行政・経済・文化・交通の中心都市であり、市内総生産は埼玉県や兵庫県などの県内総生産を上回る。レジャー施設や博物館などの名所も多く存在し、ユニバーサルスタジオジャパンや大阪城、通天閣など多くの観光資源に恵まれた都市である。

観光統計データの比較・分析

福岡市と大阪市の観光の現状を比較するために、入込関連データの「観光客入込者数」「県内における両市の観光客入込者数の割合」について、宿泊関連データの「宿泊施設タイプ別宿泊者数」「宿泊目的割合別宿泊者数」「月別外国人延べ宿泊者数」について、比較・検討する。いずれも2010年のデータである。



・宿泊施設タイプ別宿泊者数は両市ともにビジネスホテルが最も多く、大阪府はビジネスホテルを含むリゾートホテル、シティホテルの宿泊者数が多い。一方、福岡県は旅館での宿泊者が大阪市よりも多く、県で特色が出ている。
・観光目的の宿泊が50%以上か否かでの宿泊者数でも福岡市は大阪市の約5～6割であり、両市ともに観光目的が50%未満の宿泊者数が多い。これより、福岡県、大阪府にはビジネス等を目的とした来訪が多いと考えられる。
・月別外国人延べ宿泊者数では、福岡県はそれぞれの月で大阪府の約1/4である。

※本研究では、両市に共通する比較可能なデータをもとに行っている。

福岡市と大阪市の観光資源の比較・分析

旅行ガイドブック「楽楽」をもとに福岡市と大阪市の観光資源の評価と比較を行った。

1. 観光施設

観光施設の評価は、モデルルートでの紹介の有無や取り上げ方をもとに行った。両市にはプロ野球の本拠地、シンボルタワー、水族館等の類似観光施設が存在する。それらは、それぞれのガイドブックでの取り上げ方は異なるものの、市のシンボルとされている。

福岡市と大阪市の観光資源比較で差が出た点は、福岡市の「屋台」である。「屋台」は経済波及効果が大きいこともあり、旅行ガイドブックでも力を入れている。屋台は福岡市にとって重要な観光資源で、今後、活かしていくことが大事である。

2. 食べ物

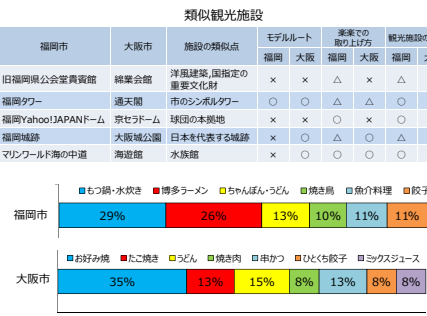
ガイドブック「楽楽」に紹介されている両市の食べ物の店舗の割合の比較・分析では、福岡市の食べ物は、郷土料理であるもつ鍋や水炊きが29%、博多ラーメンが26%で、この3つの食べ物で全体の半分以上を占める。

一方、大阪市はたこ焼きやお好み焼といった郷土料理が売っており、両市には類似している点がみられる。

3. 祭り

両市の祭りの類似点は県・府を代表する祭りがあり、国の重要無形民俗文化財に指定されている祭りがあるという点が挙げられる。相違点は、福岡市は市のHPに博多祇園山笠などを紹介した特集を組んでいるが、大阪府は市のHPに祭りの特集を組んでいない。

主要観光施設			
地域	施設名	施設の概要	モデルルート 商業での取り上げ方
福岡市	櫛田神社	お櫛田さんの愛称で親しまれる博多の総鎮守	○ △ ○
	「博多町屋」はるささ館	博多の暮らしを紹介する施設	○ △ ○
	キャナルシティ博多	店や映画館がありホテルも併設する複合施設	○ ○ ○
	福岡タワー	福岡一を望めるこの出来る海浜タワー	○ ○ △
	大濠公園	約40万㎡の敷地を有している公園	×
	屋台	福岡市中央周辺に多く存在する。福岡の夜のシンボル	○ ○ ○
	ホークスタウン	ドームホテルなどの大型施設が揃った複合施設	×
	マリナシティ福岡	九州最大級のウォーターモール	○ ○ ○
	マリンワールドの中海	多くの海の生物に親しみ合えるこの出来る水族館	○ ○ ○
	福岡城跡	国の重要文化財である南丸多門櫓がある	×
大阪市	旧福岡会堂貴賓室	未実現待所として建てられた洋風建築の建造物	×
	大阪城公園	「太閤さん」と呼ばれ親しまれた大阪のシンボル	○ ○ ○
	通天閣	数多くの映画にも登場した大阪のシンボルタワー	○ ○ △
	USJ	映画の世界をテーマとしたテーマパーク	○ ○ ○
	海遊館	世界最大級の水族館	○ ○ ○
	なばなランド花月	日本を代表するエンターテインメントの観覧山	○ ○ △
	心斎橋	市内でも唯一のショッピングエリア	×
	道頓堀	大阪きつぷのカルタウタ	○ ○ ○
	住吉大社	4段の御本陣が「住吉通」と呼ばれる神社建築史上最も古くの一	○ ○ △
	錦糸公園	昭和6年に日本建築倶楽部の建物として竣工された	×
四天王寺	日本初の本格的な仏教聖地	×	



紹介されている福岡市と大阪市の店舗の割合	
主な祭り	
福岡市	博多祇園山笠
大阪府	十日戎
福岡市	宮崎宣放生会
大阪府	四天王寺やどや
福岡市	博多どんたく港祭り
大阪府	天神祭り

福岡市と大阪市近郊の観光施設の比較・分析

1. 近郊都市の観光施設

観光は主要な都市を拠点に近隣の観光スポットに向かうことが多いことから、近郊の観光スポットは都市の観光資源において重要な要素の一つである。

福岡市の場合、福岡市近郊の観光スポットがモデルルートに含まれているのに対して、大阪市の場合は、モデルルートは市内の観光が主で、近郊の観光スポットはモデルルートに含まれておらず、市内観光に偏っている。

ページ数や施設数では、福岡市近郊の観光スポットは9つのエリアが掲載され、一つ一つが詳細に記載されている。一方、大阪近郊の観光スポットは7つのエリアと近郊について紹介しており、紹介しているページ数、施設数は福岡市より少ない。

観光は主要な都市を拠点に近隣の観光スポットに向かうことが多い。

都市近郊の観光スポットは観光において重要な要素の一つ

2. 福岡市の新たな観光資源

大阪市との比較の中で福岡市の新たな観光資源として有望なものをピックアップした。まず、大阪市の「吉本新喜劇」に対して月替わりで様々な演目が公演される「博多座」がある。他にも2011年5月グランドオープンした「大阪ステーションシティ」に対して、2011年3月オープンした「JR博多シティ」がある。そして大阪市のセレッソ大阪の本拠地「大阪市長居球技場」に対して、福岡市のアビスパ福岡の本拠地「レパルファイブスタジアム」がある。このように大阪市との比較を通して、福岡市には新たな観光資源として有望な資源が多く存在することがわかった。

福岡市の新たな観光資源

福岡市の観光資源	大阪市の観光資源
博多座	吉本新喜劇
JR博多シティ	大阪ステーションシティ

今後の課題

1. 問題点

・統計データの比較より、福岡市は観光目的の観光客よりビジネス等の別目的で訪れている人が多い。
・観光資源の比較より、福岡市の観光資源は大阪府と同程度の数の観光資源があるが、誘致の差などによって知名度において差がでている。

2. 今後の課題

・大阪市の通天閣などのようにシンボルになりうるものをPRやマスメディアを用い、全国的に売り込んでいくことが必要である。
・福岡市の新たな観光資源として期待されている有望な観光資源を活かし、地域性を全面に出していく。

